





池坊中央研修学院 総合特別科 受講内容


<p>自由花研究室</p>  <p>野田 学</p>	<p>「形から姿へ」(池坊専永家元)と「池坊いけばなは時代の現代文化」(池坊専好次期家元)を念頭に、今の時代にマッチする自由花を研究内容として、従来の「造る自由花」ではなく、これからの「いける自由花」について論理的に分かりやすく解説し、実習します。</p> <p>自由花が大好きな方はもちろん、自由花が苦手な方も、池坊発展のために一緒に学んでいきましょう。</p> <p><研究内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「いける自由花」の基本を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的美観と構造(素材の取り合わせと構成)、表現に基づく手法、等 ●飾る環境にマッチする置、掛、釣 <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの自由花、花展の自由花 ●自由花と他様式(生花新風体、立花新風体)との融合
<p>自由花研究室</p>  <p>佐々木康人</p>	<p>「自由花で立花・生花にはない草木の魅力を表現する」</p> <p>当研究室では、この専永宗匠のお言葉を土台にあらゆる自由花の可能性を追求します。</p> <p>ひと目で貴方の作品とわかる個性ある自由花を目指します。</p> <p><研究内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自由花の基本をマスターしよう <ul style="list-style-type: none"> ・草木美の捉え方(自然的・デザイン的) ・小品自由花を自由自在に(インテリアの花・花展の花) 2.モチーフの捉え方をマスターしよう <ul style="list-style-type: none"> ・絵画や写真等からモチーフの捉え方を研究します ・多様な感情(喜怒哀楽)、雰囲気の表わし方を研究します 3.未知なる自由花を目指して <ul style="list-style-type: none"> ・掛け、釣り等多様な環境。オシャレな花・カワイイ花等 私と一緒に、未来に向かう貴方の自由花を研究しましょう。
<p>自由花研究室</p>  <p>村上謙治</p>	<p>生活様式の変化がめまぐるしい昨今</p> <p>形式にこだわらずもっとも必要とされてきている自由花・・・</p> <p>身近にある自然を素材として、素直な気持ちでその美しさを、自分自身を表現できる自由花こそ</p> <p>「専応口伝」からも多くを学び取ることが出来ます。</p> <p><研究内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・草木を見極める(姿、形から特徴を) ・教える花、花展の花、暮らしに合った花 ・創作の楽しさ(手作りの器、他) ・環境に応じた新たなアプローチ(掛、釣り、タペストリー、ミニチュア、他)


<p>生花 研究室</p>  <p>中村福宏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 池坊生花における総合的研究 <p>生花は池坊いけばなの中で、最も簡略された中に草木の命の響きを表現する花型です。少ない役枝を通して表現しますが、大切なことがたくさん集約されている花形です。</p> <p>生花の持つ格調美をしっかりとつかみとり、今日の適応性を考え自己の感性を磨いていただく研究室です。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 生花の成り立ちから、今日までの過程 生花における伝書に基づく研究 生花正風体と新風体との相違点と表現方法への研究 今日の環境、花材、花器、それぞれの適応性を考える


<p>生花 研究室</p>  <p>豊田光政</p>	<p>「一花一葉の命の輝きをみつめる」</p> <p>一瓶の中に少ない役枝で草木の美を表現する生花。基礎を学び、専定生花を研究し、究極の省略美を探る。又、今に生かせるスタイルを考察する。池坊生花を楽しく研究する教室です。</p>
<p>新設</p>	<p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 生花正風体 <ul style="list-style-type: none"> 生花の変遷 五ヶ条、七種伝 変化形、生花別伝 草の花(釣・掛け・二重) ■ 生花新風体 <ul style="list-style-type: none"> 現代への適応(花器・花材・環境) 新たなチャレンジ(株分け・釣花・掛花)


<p>生花 研究室</p>  <p>倉田克史</p>	<p>「温故知新」</p> <p>先人の教えに学び、今、そして未来に向けて「シンプルスタイル」＝「省略の美」の可能性を追求します。</p>
	<p>指針</p> <ul style="list-style-type: none"> 生への共感を持ち、草木に対峙する視点養育 生活環境の中でのフレッシュな生かし方を模索 生花の発生と変遷、その時代背景の考察 伝書を紐解き、基本理念と技の確かな習得（五ヶ条・七種伝・別伝） 草木の姿を通して、自己の想いを表現


<p>古典立花 研究室</p>  <p>西田 永</p> <p>新設</p>	<p>室町期から江戸期までの立花の変遷を俯瞰的に捉え、立て花の時代、二代専好から専養代を中心に古典の世界を学び、今日的立花表現への可能性を考察します。寸水尺樹をもって山谷里江の風景を席に移すといわれる立花表現ですが、時を超えて今に通ずる典雅な美しさとその魅力に心を遊ばせてみませんか。</p> <p><u>研究内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代からの考察 立て花、各時代を代表する花人とその作風 ・特殊な表現と構成 直真の多様性、砂物、胴束、一色 等 ・幹造り等の特殊な技法
--	--

<p>古典立花 研究室</p>  <p>豊田光政</p>	<p>かつて今だった時代に想いを馳せてみませんか。古書に学び、絵図の絵解きをし、時空を超えて伝わる教えを学び、現代へつながる立花の研究を目指します。</p> <p>◇技術の習得 作品制作を通じ、込み藁の作り方から、のこぎり・ドリルの使い方を学びます。幹造りのデモンストレーションを行います。各期の開講前に、必要な花器・道具・参考書籍等をお知らせします。</p> <p>◇研究内容 絵図をもとに作風の違いを見つめ、そこから時代背景などを研究。立花の変遷を学ぶ中で、砂物や胴束にも挑戦します。立て花からは、現代に通じる作品を研究します。</p> <p>大作から小品まで、自身で作成できる研究室を目指します。</p>
---	---

<p>立花 研究室</p>  <p>中村福宏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・池坊立花における総合的研究 <p>今日、立花は大きく二つに分かれました。立花正風体と立花新風体です。私の研究室では、立花正風体を基本として立花新風体へ進み、立花の総合的な考え方を研究していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立花の変遷(成り立ちから今日まで) ・正風体の基本から応用へ ・新風体の基本的な考え方から、自己の新風体を極める ・各自の個性を尊重し、感性を磨く
--	---

<p>立花 研究室</p>  <p>小林春荘</p>	<p>立花は「松に始まり松に終わる」のではないのでしょうか。松は立花において最も重要な花材であり、多くの伝花のモチーフにもなっております。当研究室では今一度この松という素材に注目してみたいのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ そこでまず一作目は、可能なかぎり松を使用し、従来の和物を中心とした基本的な立花正風体を勉強します。 ○ 次の二作目は、一作目で使用した松などの花材を再利用し、今度は如何に 現代感覚を取り入れ、今日的にアレンジしていくかを試行錯誤しながら挑戦していきます。ここでは花材も和物にこだわらず新しい世界を目指します。当研究室の特色をこのあたりで出せればと考えております。 ○ あとは一、二作目とは全く異なる現代生活にマッチした立花新風体と取り組んでいきます。 <p>以上、五日間を基本的に三部構成で進めてまいります。</p>
---	--

<p>立花 研究室</p>  <p>西田 永</p>	<p>一輪の花、一枝一葉のはずむ姿に思いを寄せ、自然の美しい景色や心象をその様式に昇華する立花の心と技は、優れた先達によって伝承され、その時々の人々の心を満たしてきました。</p> <p>当研究室では、立て花から新風体へと展開してきた立花様式の柔軟な適応性を考察するとともに、現代の多様な環境に対する更なる可能性を追求します。</p> <p><u>研究内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <基礎から応用> より高い完成度と創作を目指すための基礎力の強化 ・ <立花正風体> 伝統的美感に基づいた構成と変化 ・ <立花新風体> 立花の創作性と今日的環境への適応 <p>全期共通の研究内容です。</p> <p>各自の立花表現がより充実するようパワーポイント等を用いて、わかりやすい指導を心がけています。</p>
---	--

<p>立花 研究室</p>  <p>清水新一</p>	<p>「立花を立てる事が好きで、その時間が最も楽しい。」と感じているのは、私だけではないと思います。そのうえ、立花を立てる本来の楽しさを見出し、満足のいく花を立てようと努力する自分や仲間に出会えれば最高です。</p> <p>当研究室では、まず池坊の伝統的な美感を育てることを大切に考えています。その為に、花材の選定や構成などを考察することが重要と考えます。さらに、それらと現代の社会状況、花材事情との調和を模索していけば、古典では為し得ない、より幅広い新しい美の追求が出来るのではないかと考えます。</p> <p><立花正風体> 構造を理解し、伝統的な美感を養う。より指導しやすく、習いやすい立花を模索する。</p> <p><立花新風体> 現代の社会状況や花材事情を踏まえながら、現代人の感性を刺激する花の極限に迫る。</p> <p>経験の多少に関わらず、一人ひとりのペースで無理のない歩みの中から、自分自身で納得のいく花が立てられるように共に勉強していきましょう。</p>
---	---

研究室についての注意事項

- ◎ 1年間で4期 開講。1研究室につき最大3回の受講が可能です。
- ◎ 年齢制限があるため、誕生日が昭和34年12月31日以前の方は、下記の職位が必要です。

誕生日が S35年1月1日以降の者……………正教授3級以上
S31年1月1日～S34年12月31日の者… 准華督以上
S28年1月1日～S30年12月31日の者… 華督以上
S26年1月1日～S27年12月31日の者… 副総華督以上
年齢制限無し…………… 総華督以上

- ◎ 豊田生花研究室・西田古典立花研究室は今年度新設です。
- ◎ 応募者が10名以上で開講します。（2021年度に限る）
開講されなかった研究室・特修クラスに申し込まれた方は、
発表後、別の研究室・特修クラスへの振替をご案内します。

締切日 2021年1月22日(金)(当日消印有効)以後は、
いかなる理由であっても受付けできません。

【特修クラス】 <京都平日・土日> 二年制平日コース(全8期) / 二年制土日コース(全10期)

中央研修学院の特命教授・教授・准教授・客員教授が授業を担当します。
下記に紹介している内容の他、講師の得意とする分野や季節、前回のカリキュラム等を考慮した上で、毎回独自のカリキュラムを用意します。カリキュラムは授業予定日の約1ヶ月前郵送でご案内します。講師が每期異なるので、色々な先生から学ぶことができるのも特徴で

<h2>自由花専攻</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物素材の見方、主材の決め方 ・自由花における発想と表現 ・環境(TPO)への適応 (タペストリー、置き、掛け、釣り) ・自由花の花器と形との関連性 ・自由花の花器と色彩との関連性、など 	
<h2>生花専攻</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・生花の本質 生花表現における不易と流行 ・生花正風体(一種・二種・三種の表現) ・生花五ヶ条 草木出生の据え方 ・変化形について(向掛・横掛) ・七種伝を学ぶ ・生花新風体、など 	
<h2>古典立花専攻</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を訪ねて ・幹造り立花の基本 ・専好の作風を学ぶ ・専養の作風を学ぶ ・砂物、など <p>※ 特修古典立花専攻の申込みは総合特別科 (古典立花研究室・立花研究室・特修立花専攻) を一度でも修了された方に限ります。</p>	
<h2>立花専攻</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・立花正風体と立花新風体 ・立花新風体への糸口 ・習物七ヶ条を学ぶ ・幹造り立花の基本 ・立花正風体(一色物)、など 	

特修クラスについての注意事項

- ◎ 2年間で開講いたします。(二年制平日コース(全8期) / 土日コース(全10期))
- ◎ 今年度は東京での土日コースの開講はありません。
- ◎ 受講回数や職位による制限はありません。
- ◎ 応募者が10名以上で開講します。(2021年度に限る)
- ◎ 開講されなかった特修クラスに申し込まれた方は、発表後、別の研究室・特修クラスへの振替をご案内します。

**締切日 2021年1月22日(金)(当日消印有効)以後は、
いかなる理由であっても受け付けできません。**